

オープンカレッジ東京の取り組み

オープンカレッジ東京 運営委員会
東京学芸大学
菅野 敦

オープンカレッジ東京の取り組み

OCT

1. 概要と特徴

2. テーマについて

3. 受講生について

4. OCTからの提案

(1) 講座の作り方

提案1. 成人期知的発達障害者の生涯学習支援システムの構築に関して

(2) 講座領域の設定

提案2. 4つの領域+1領域における支援内容の枠組みに関して

(3) 講座内容の選び方

提案3. 知的障害者におけるライフステージ別の支援課題に関して

5. 障害者の生涯学習支援における課題

提案4. 知的発達障害の障害特性に基づく支援システムの構築に関して

1. オープンカレッジ東京の概要と特徴

成人期知的発達障害者(2004年以降定型発達者も含む)を対象に、1995年より東京学芸大学で実施している生涯学習支援の取り組み



講座の様子

- (1) 大学という場での障害者の生涯学習支援 (オープンカレッジ) の1例
- (2) 様々な試行を経て、開発研究と
(第1期~第4期) しての位置づけ (第3期~)
- (3) 運営経費: 受講料(1,500円/回)
(教材通信費・保険料等)
実施回数: 年4回 + 学習発表会 1回
(9月~12月)
- 運営委員会: 大学教員、小・中・特別
支援学校教員、自治体職員、特例子
会社社員、福祉関係職員、大学院
生・学生等 毎年、約30名で構成

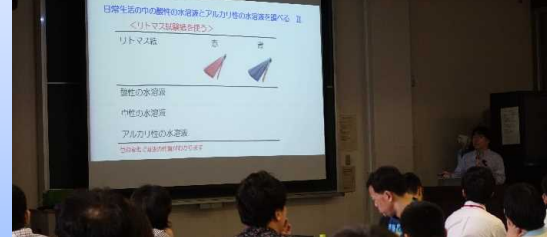
(4) 講師：大学教員等が担当

教育権の保障、発達権の保障

(5) 講座の展開

(代表的な例：サイエンスラボ)

大学教員の講義



「水溶液に関わる講義」

受講生の活動



生活場面で関わりのある水溶液には3つの性質があることを知る

講師：大学教員

講義1

スタッフによる
講義の解説

スタッフと演習1

講師：大学教員

講義2

スタッフと演習2

講師：大学教員

講義3

2. テーマ

第1期 (1995年～2003年)

東京学芸大学公開講座
「自分を知り、社会を学ぶ」

第2期 (2004年～2005年)

東京学芸大学公開講座
「いっしょに学び、ともに生きる」

第3期 (2006年～2014年)

オープンカレッジ東京(OCT)
「いっしょに学び、ともに生きる」
「いつでも学べる、どこでも学べる」

第4期 (2015年～)

オープンカレッジ東京(OCT)
「考える“わざ”を学ぶ」

2. テーマ

第1期 (1995年～2003年)

東京学芸大学公開講座

障害者の生涯学習支援のあり方模索期

第2期 (2004年～2005年)

東京学芸大学公開講座

(意義と学習内容)

「いっしょに学び、ともに生きる」

第3期 (2006年～2014年)

オープンカレッジ東京(OCT)

障害者の生涯学習支援のあり方検討期①

(学習の場と学習内容)

「いつでも学べる、どこでも学べる」

第4期 (2015年～)

オープンカレッジ東京(OCT)

障害者の生涯学習支援のあり方検討期②

(学習方法と学習内容)

3. 受講生

第2期以降：知的発達障害者と定型発達者

2004年：80名（60名＋20名）
（「いっしょに学び、ともに生きる」）

→2017年：61名（60名＋1名）＋大学生11名

過去6年間の受講生数の変遷

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
受講生数	50名	58名	68名	76名	67名	61名
平均年齢	31.0歳	31.0歳	33.3歳	33.4歳	34.6歳	32.5歳

新規受講生は毎年10名前後

受講生の主な居住地域：東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・群馬・新潟・福島・京都・札幌・山口からも参加

1995年～2016年 受講生のべ数：約300名
20年間連続で参加している受講者：約10名

4 OCTからの提案

(1) 講座の作り方

提案1. 成人期知的発達障害者の生涯学習支援システムの構築に関して

(2) 講座領域の設定

提案2. 5つの領域における支援内容の枠組みに関して

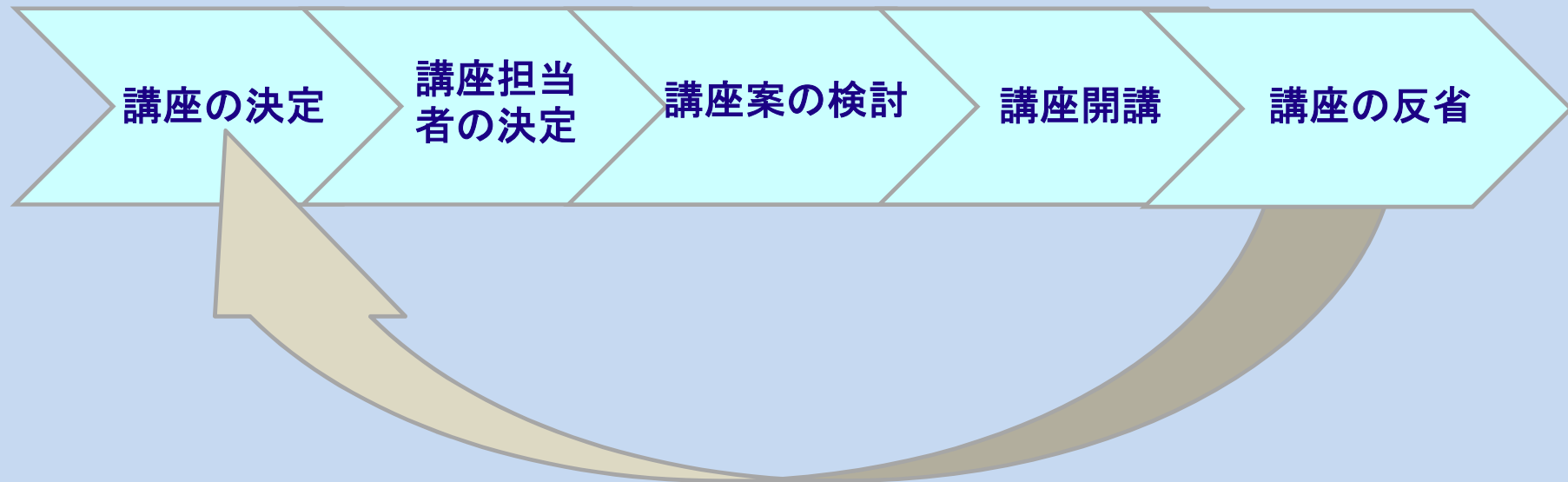
(3) 講座内容の選び方

提案3. 知的障害者におけるライフステージ別の支援課題に関して

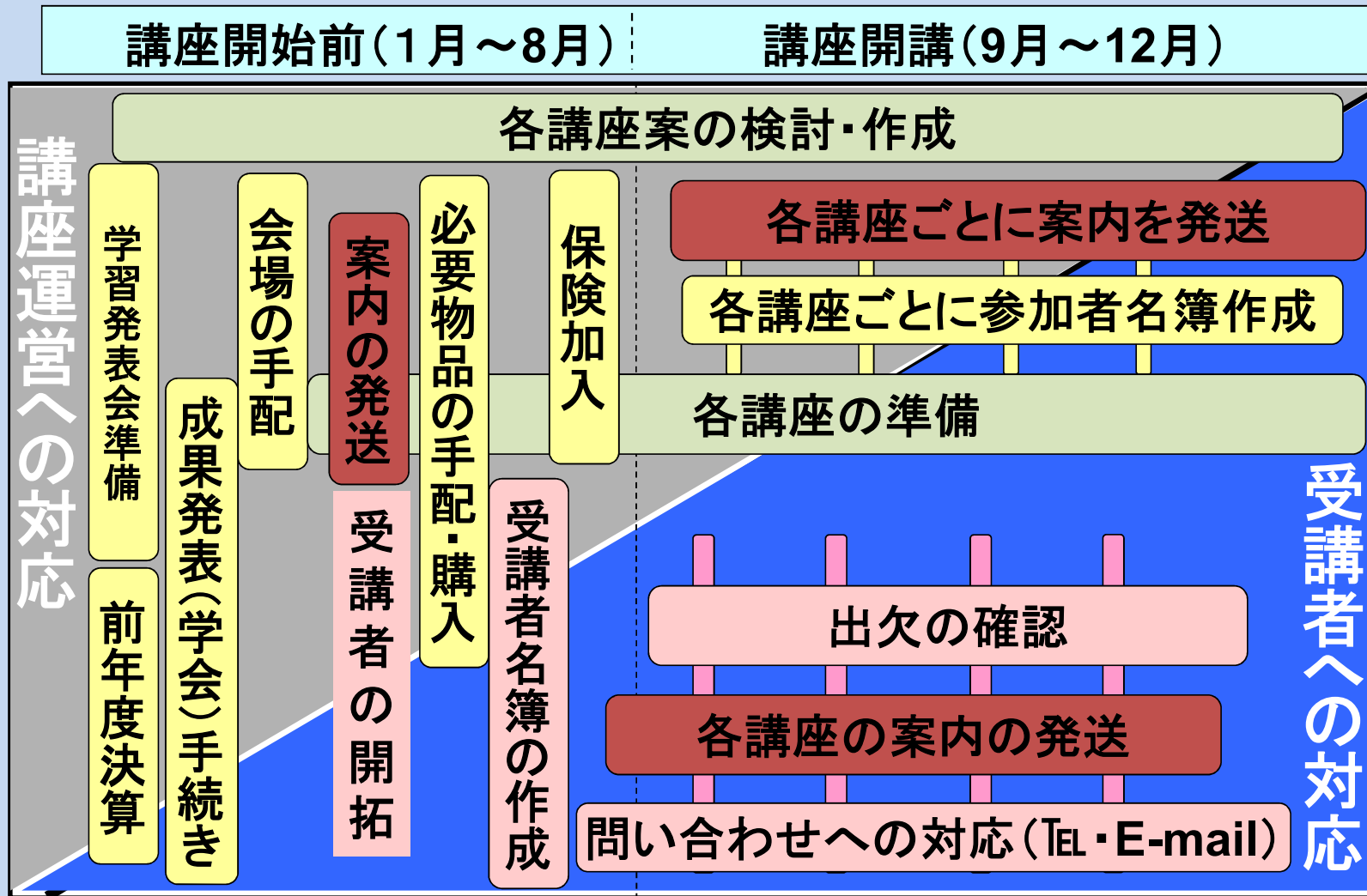
(1) 「講座の作り方」

提案1. 成人期知的発達障害者の
生涯学習支援システムの構築
(一事務局体制一)

講座開講までの流れと講座作りのサイクル



オープンカレッジ東京 年間スケジュール



都立特別支援
学校高等部の
作業学習に依
頼・発注



毎月行われる運営委員会

- ・ひとつのテーマによる講義を作り上げるまでの取り組み(指導案作り)は、毎月の運営委員会で行われ、ひとつの講義に対し、約3ヶ月ほどかけて計画・立案される。

- ・各回の講義担当スタッフは、運営スタッフから2名程度選ばれる。担当スタッフは、講師との繰り返しの打ち合わせにより、講座プログラム案を作成し、ひとつの講義を作り上げていく。

オープンカレッジ東京2017 第1回講座「日常生活の“考えるわざ”3」講座活動案

担当者:小笠原拓、竹井卓也、今枝史雄

1. 題材名:遊園地までの移動手段の比較・選択
2. 目的:日常生活において発生する問題を題材として、自分にとって適切な問題解決の手段を選択する方法を学ぶ
3. 日時:平成29年9月24日(日)13時00分～16時00分
4. 講師:小笠原 拓(ドコモ・プラスハーティ)
5. 場所:明星大学 23号館
6. キーワード:日常生活、問題解決、比較・選択
7. 講座展開:

時間	講座の流れ	受講生の活動	講師・スタッフの動き	準備物
12:00	・事前準備		・会場準備 ・受付準備 ・グループ担当者決定	
12:30	・講座受付	受付をする		
13:00 (5分)	・講座開始 1. 菅野先生より開講の挨拶 2. 講師および担当者の紹介		担当:今枝 進行およびPPT操作	
13:05 (15分)	講義1:遊園地に行こう 1. 事前アンケートの紹介 2. 遊園地の紹介	1. 事前アンケート結果を見る 2. 遊園地の紹介スライドを見る	1. 担当:竹井 進行およびPPT操作 2. 担当:小笠原【講師】	
13:20 (15分)	ワーク1:遊園地で乗るアトラクション、買う食事・グッズを決めよう	10種類のアトラクション、食事・グッズの中から、乗りたい、もしくは買いたいものの順に、1位～6位順位付けて、計画表に貼る	* 一度並べてから貼るように教示する * 計画表はシール貼付後、回収する。	・計画表(1枚) ・アトラクションシール10枚 ・食事・グッズシール10枚
13:35 (10分)	個人ワーク2= 問題の発見① 「遊園地に向かう電車が止まっている」状況から、遊園地でどんなことが起きるか考える。	3つの迂回ルートの特徴を聞き、計画表を見ながら、「今から行く遊園地でどんなことが起きるか」、問題発見シートに記入する。	【スタッフ】 必要に応じて個別にフォロー * この時に問題発見できなくても構わない。 書字支援以外の支援はしない。	・問題発見シート

- ・講座プログラム案は、指導案形式のもので毎月行われる運営委員会で検討される。

(2)

「講座領域の設定」

提案2. 4つの領域における支援内容の枠組み + 1領域

講義のテーマは、ICFの活動と参加および、AAMRの10の適応領域から考えられた生涯発達支援・地域生活支援の4領域 + 健康領域を加えた5領域から見出す。

成人期知的障害者の生涯学習機会における学習内容の実態

調査対象

障害者青年学級

36ヶ所／54ヶ所(66.7%)

特別支援学校

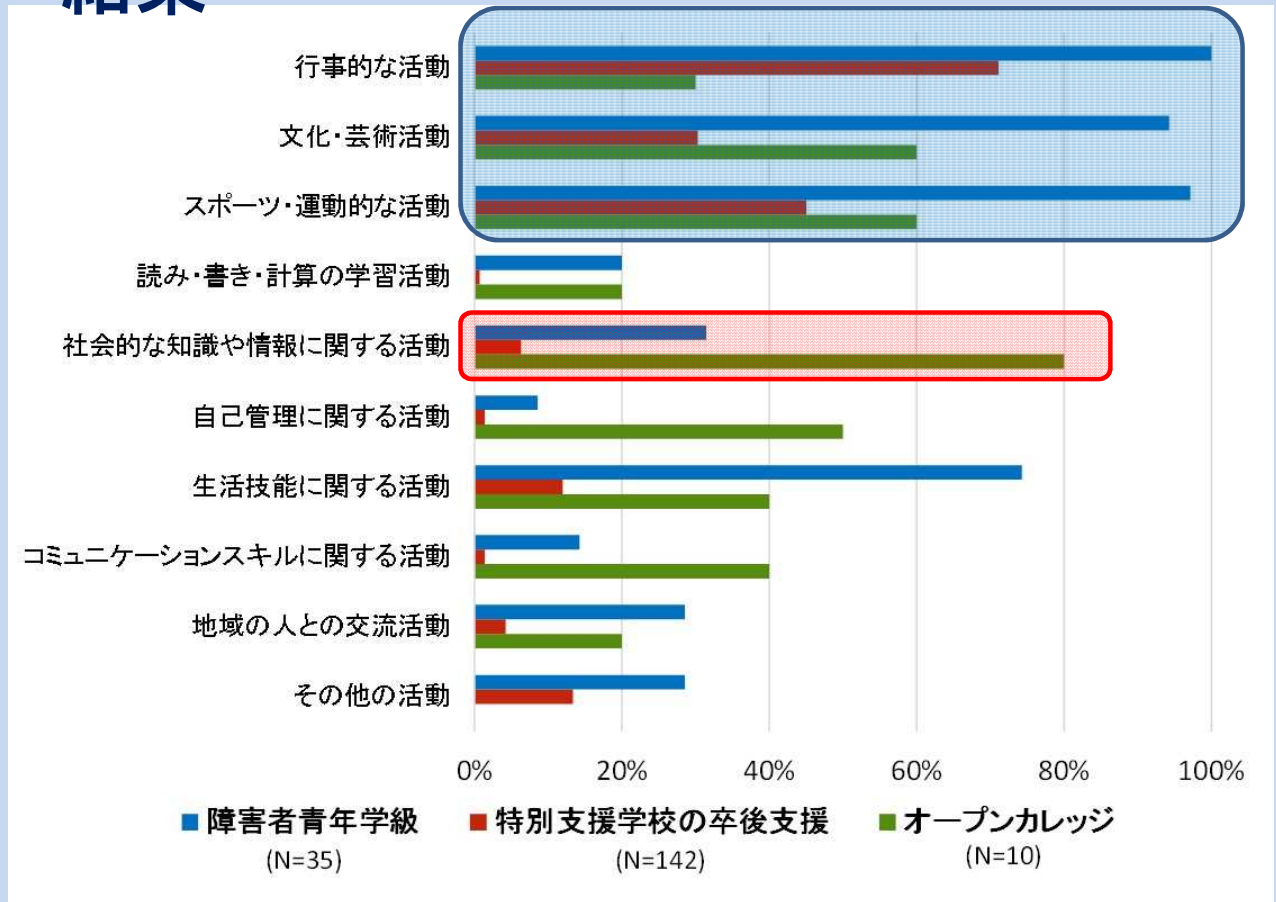
333ヶ所／171ヶ所(51.4%)

オープンカレッジ

15ヶ所／11ヶ所(73.3%)

学習内容の実施率

結果

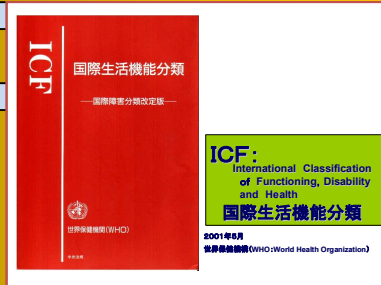


講座内容に偏りがおこらないよう

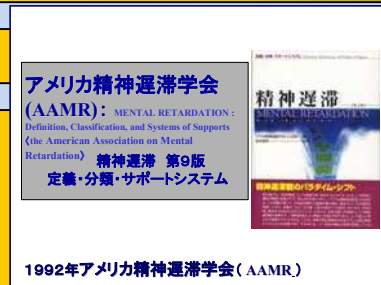
「講座領域の設定」

領域の考え方

[AAMR]
コミュニティ資源の
利用, 余暇,
実用的な学業
, 健康と安全
[ICF]
学習と知識の
応用,
運動・移動,
コミュニティ・社
会生活・市民
生活, (主要な
生活領域)



[AAMR]
身辺処理,
家庭生活
[ICF]
セルフケア,
家庭生活



[AAMR]
労働,
自律性
[ICF]
一般的な課
題と要求,
主要な生活
領域

[AAMR]
コミュニケーション,
社会的スキル
[ICF]
コミュニケーション,
対人関係

学ぶ・楽しむ
(学習・余暇)

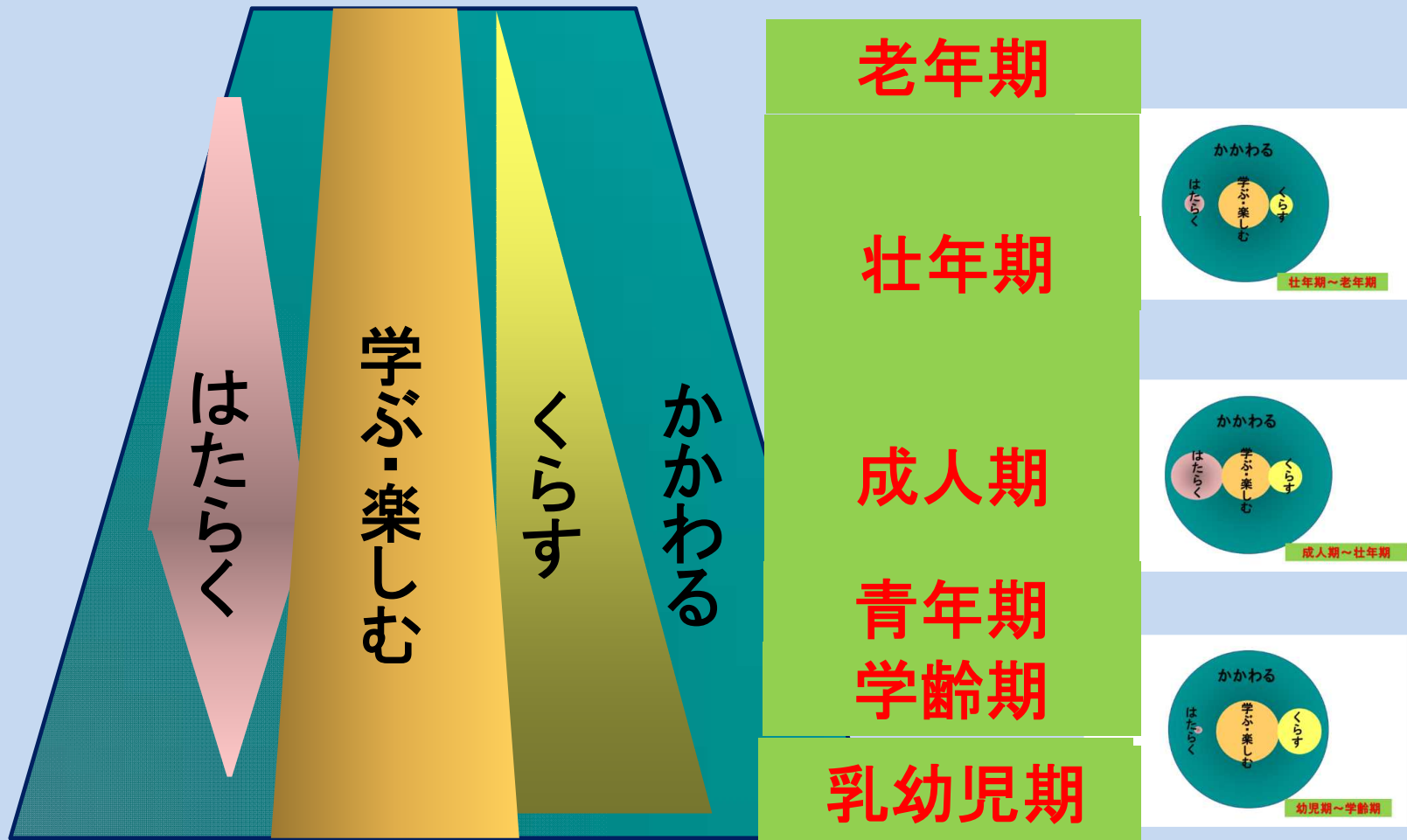
くらす
(自立生活)

はたらく
(作業・就労)

かかわる
(コミュニ
ケーション)

生涯発達・地域生活支援4領域

生涯発達支援と地域生活支援の4領域



青年・成人期の生涯発達支援における支援課題についての検討

生涯発達・地域生活支援4領域＋健康領域

健康支援領域

肉体的・精神的に疾病や障害を抱える状態を予防し、健康維持・増進するための支援領域

学習・余暇支援領域

余暇資源
ため

学習・余暇支援領域に健康管理に関する内容を位置づけているが、健康支援領域を設定し、健康問題についても考える

自立生活支援領域

作業・就労支援領域

作業や仕事において求められる技術や態度など、企業施設などで行われる作業や仕事に関する技能や必要な能力に関する領域

コミュニケーション支援領域

行動障害の軽減も含め、他者との円滑な社会生活を送るために必要なコミュニケーションに関する領域で、やりとりや要求に始まり、報告・連絡・相談、そして経験や知識を生かして相手の気持ちをつかむまでを支援する領域

(3)

「講座内容の選び方」

提案3. 知的発達障害者における
ライフステージ別の支援課題

2007年

「5つの領域からみた成人期の支援課題の実態と課題」

調査対象事業所1644ヶ所／6458ヶ所(25.5%の回収率)

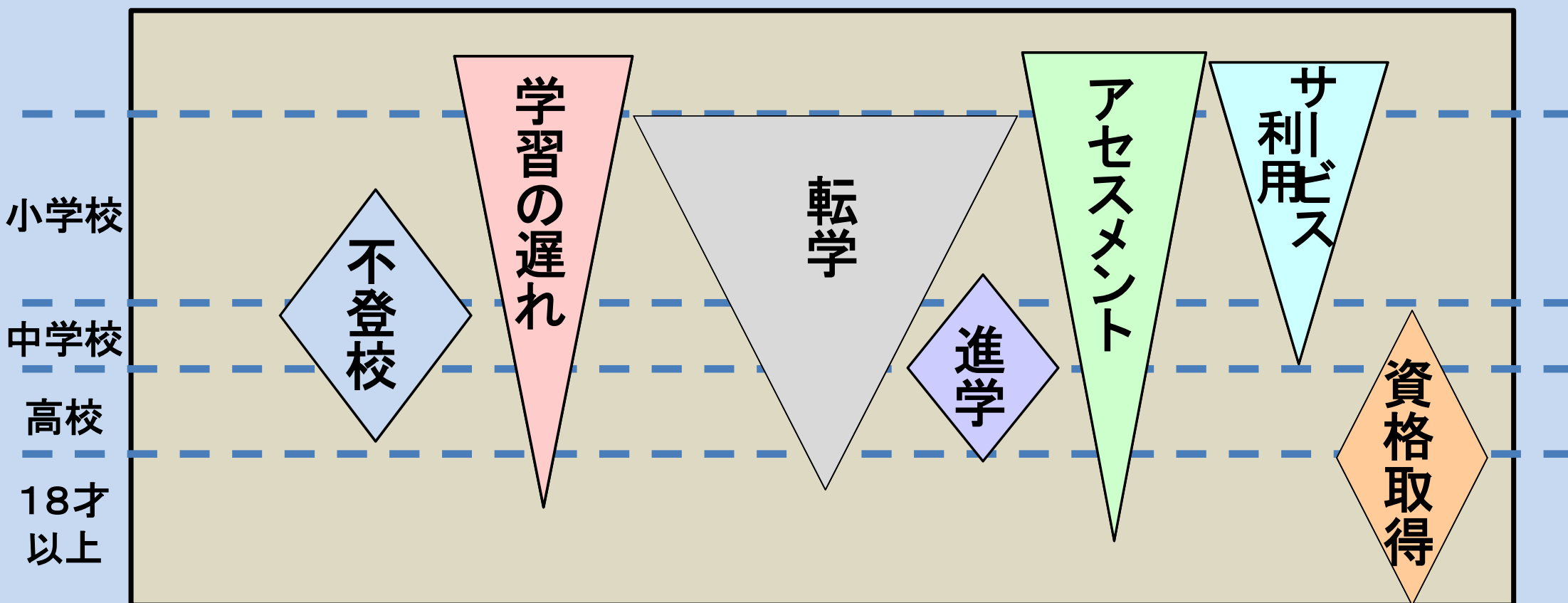
**5つの領域からみた
成人期の支援課題の実態と課題**

2007年

調査対象事業所1644ヶ所／6458ヶ所(25.5%の回収率)

学習・余暇支援領域

相談内容からみた各年齢の特徴



「オープンカレッジ東京」の受講者の学習希望

領域	具体的な内容
運動	ダンス、体力を鍛える、ウォーキング など
趣味・教養	書道、鉄道、人物史、コンピューター講座、歴史と地理、自然や動物、英会話、病気について、経済や社会の勉強、音楽、自然と人のつながり、障害者の権利、一人で作れる簡単料理、芸能界、裁判制度 など
レクリエーション	ダンスパーティ、リラックスできるもの、気分転換 など
法律・制度	成年後見制度、障害基礎年金、障害者の権利、振り込め詐欺をどう防ぐか など
その他	やさしい講座 など

青年・成人期においても、様々な学習・余暇支援領域への要望があるが、受け皿となるサービス等がないことが推察される

自立生活支援領域

相談内容からみた各年齢の特徴

年代	特徴
10代	<ul style="list-style-type: none">・ADLの獲得が課題。・家庭環境や家族の体調不良、家族とのトラブルの問題もみられる。
20代	<ul style="list-style-type: none">・ADLの維持が課題。・家庭環境や家族の体調不良、家族とのトラブルの問題が10代よりも顕在化してくる。・生活の場の移行の希望が出てくる。
30代	<ul style="list-style-type: none">・ADLの維持、生活リズムの安定が課題。・家庭環境や家族の体調不良、家族とのトラブルの問題がみられる。・生活の場の移行の希望が多くなる。
40代以上	<ul style="list-style-type: none">・保護者の高齢化、親なき後の支援が本格的に必要なになる。・家庭環境の変化。兄弟、姉妹との確執などの問題も現れる。・生活の場の移行の希望が多くなる。

自立生活支援領域における支援内容一覧(試作)

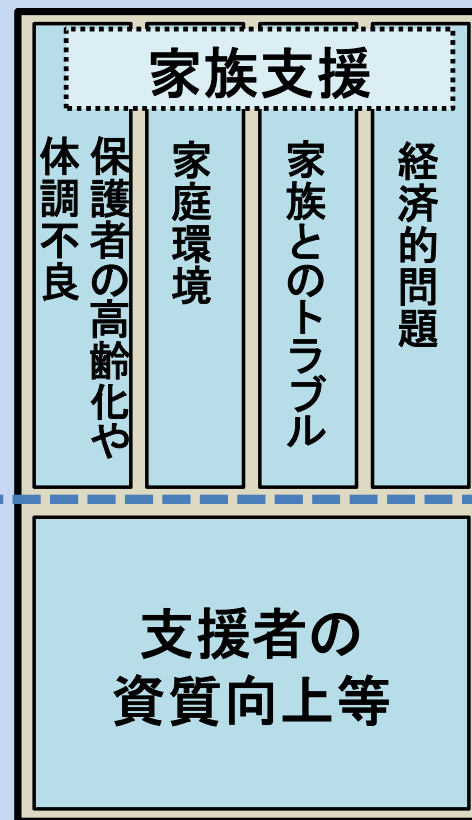
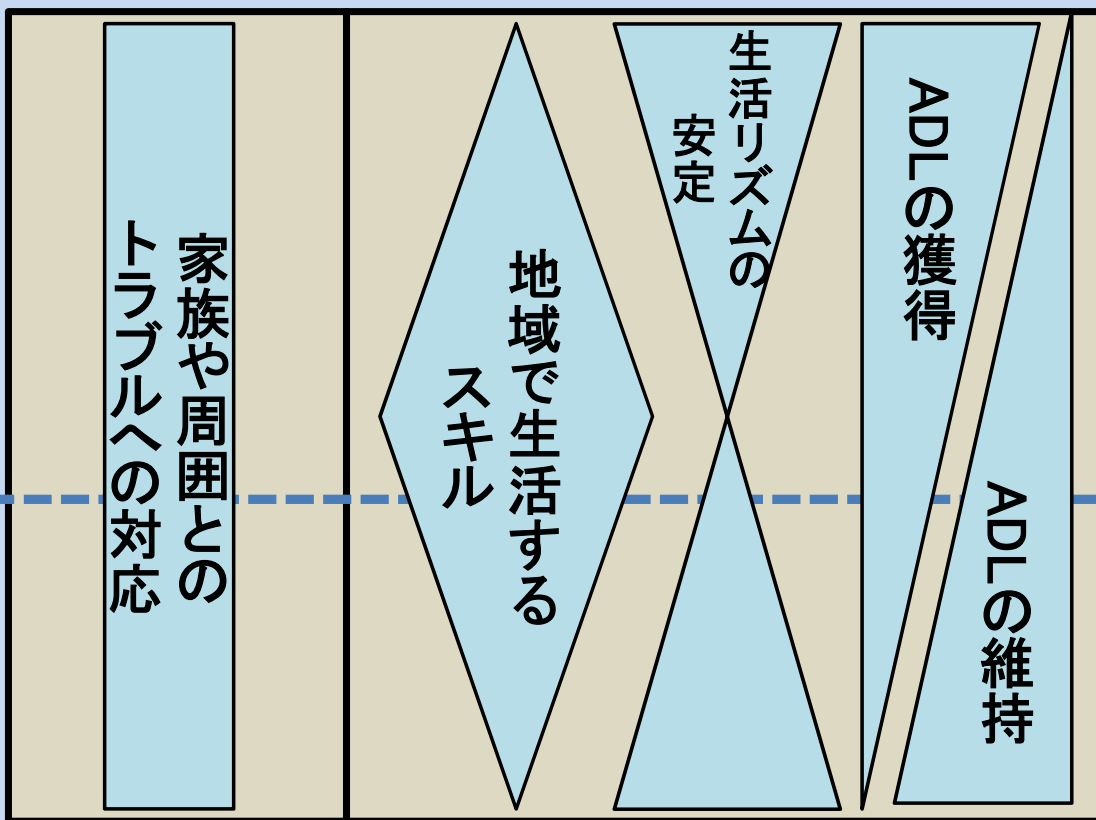
本人への支援

① 困難さへの
対処的支援

② 知識・スキルの獲得・維持

③ 環境の調整・
支援者への支援

10代
20代
30代
40代
以上

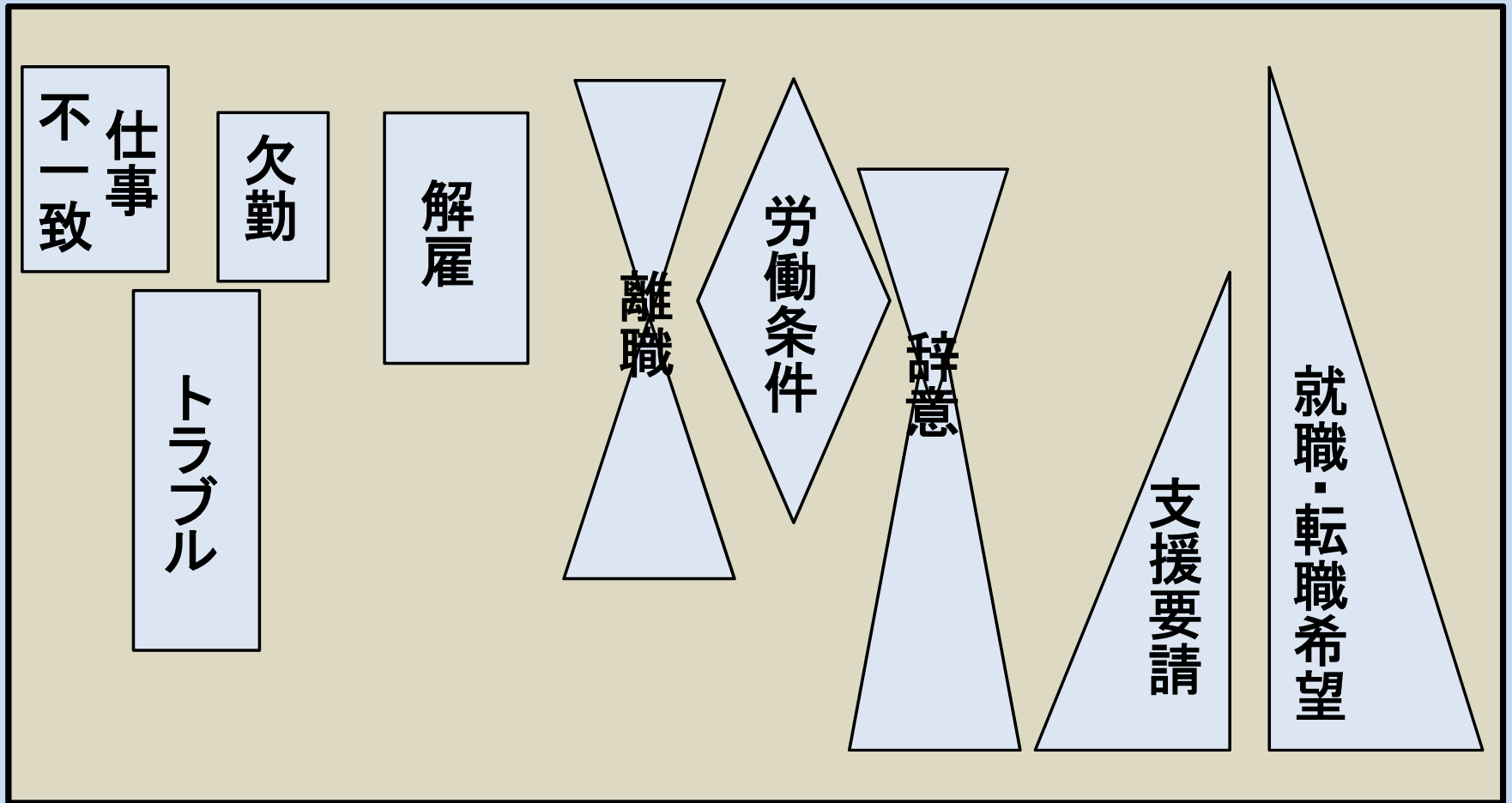


グループホーム、アパート等への移行

作業・就労支援領域

相談内容からみた各年齢の**特徴**

10代
20代
30代
40代
以上



作業・就労領域における支援内容一覧(試作)

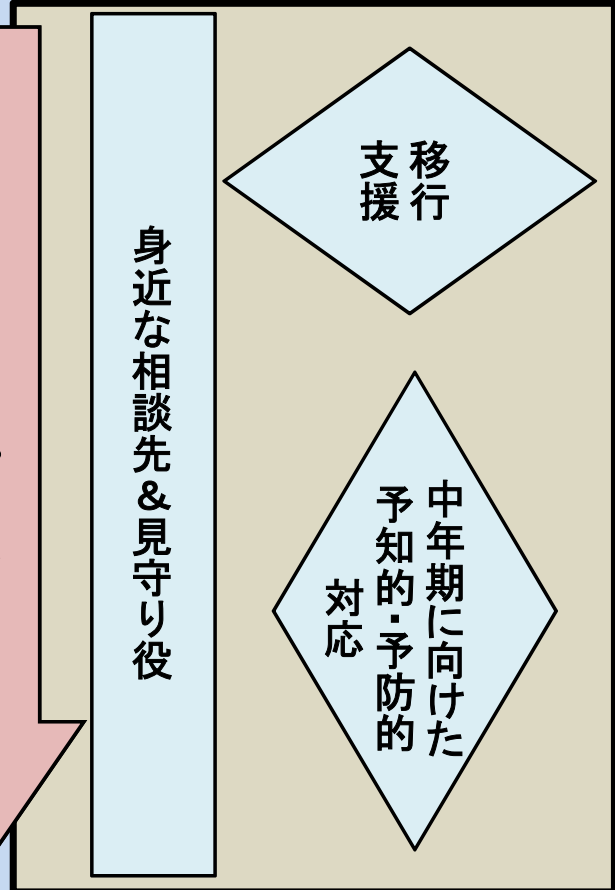
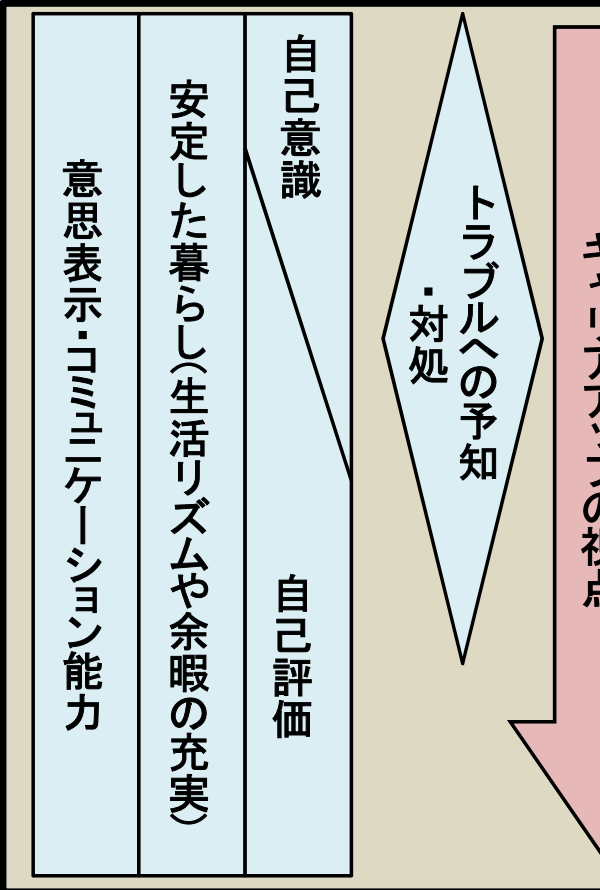
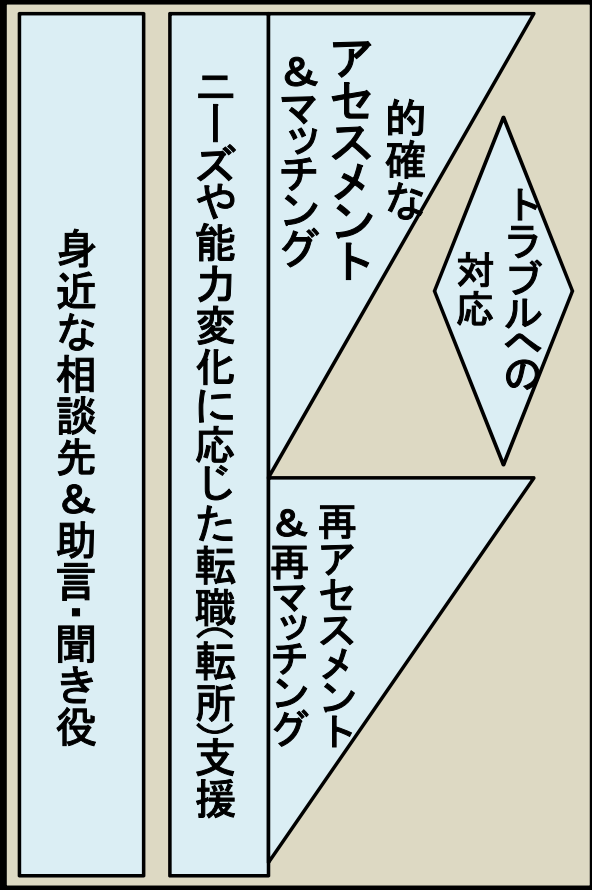
本人への支援

① 困難さへの対処的支援

② 知識・スキルの獲得・維持

③ 環境の調整・支援者への支援

10代
20代
30代
40代
以上



コミュニケーション支援領域における支援内容一覧(試作)

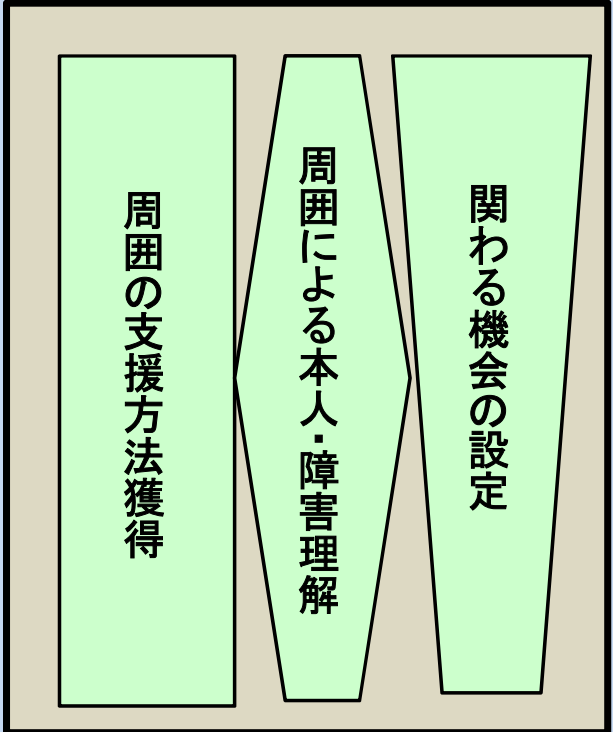
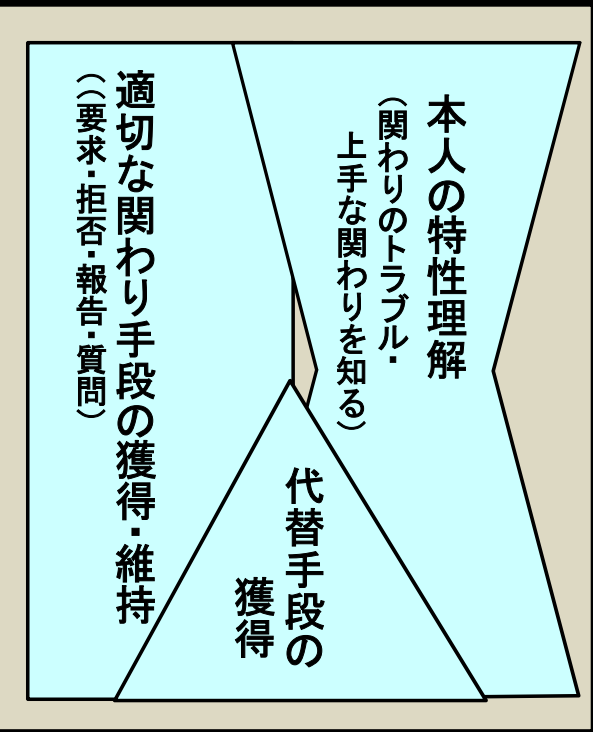
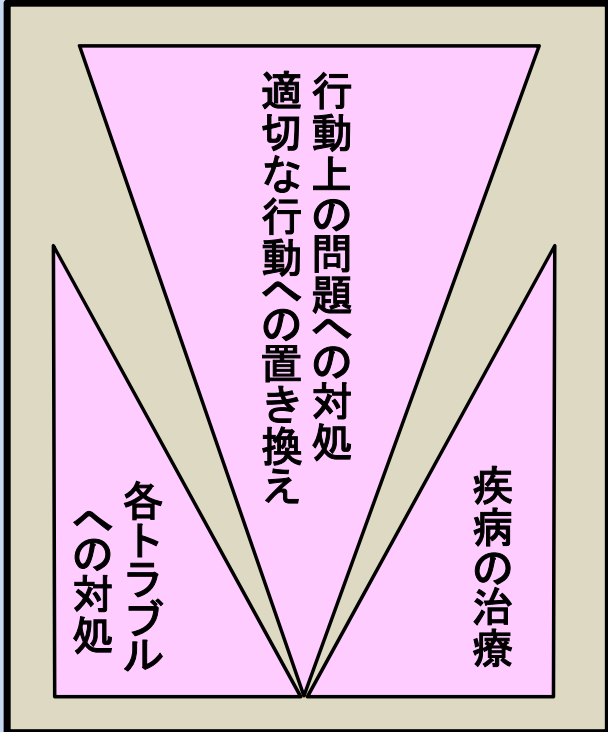
本人への支援

① 困難さへの対処的支援

② 知識・スキルの獲得・維持

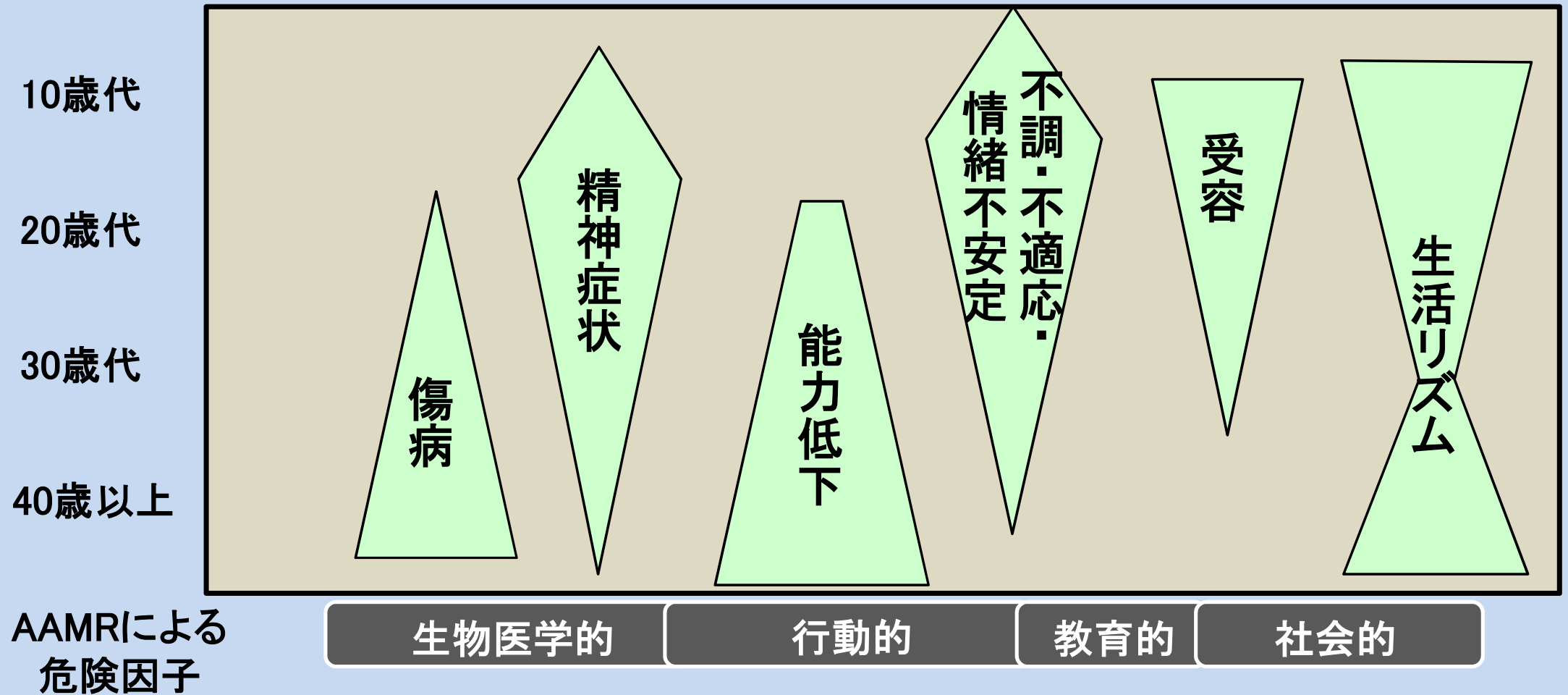
③ 環境の調整・支援者への支援

10代
20代
30代
40代
以上



健康支援領域

相談内容からみた各年齢の特徴



健康支援領域における支援内容一覧(試作)

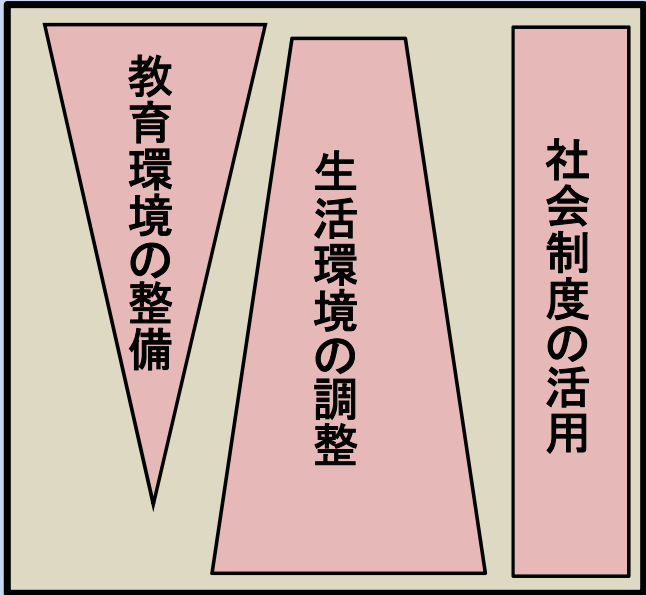
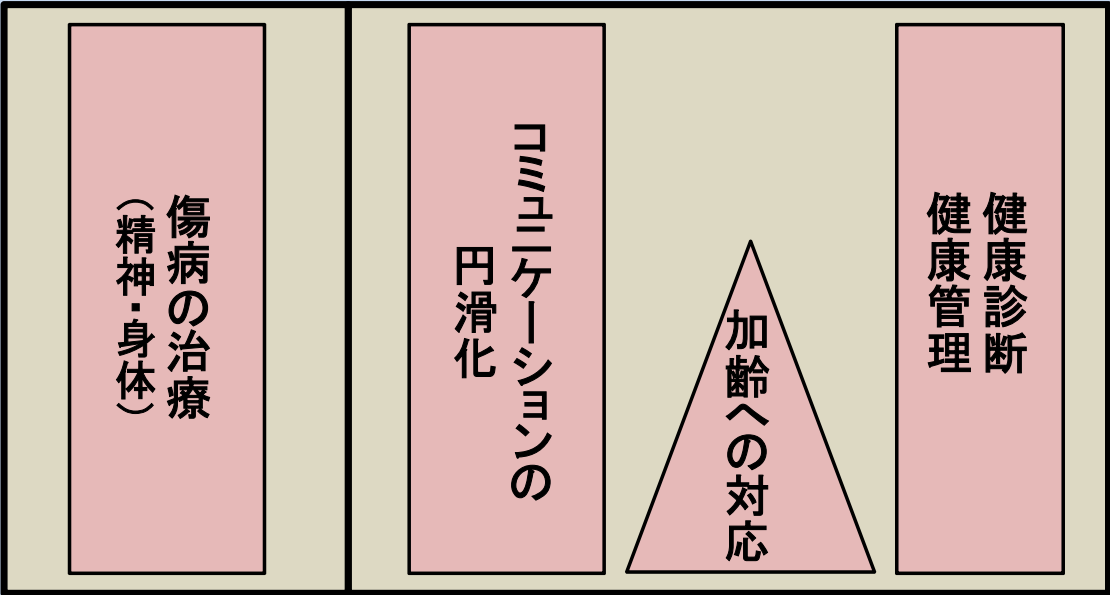
本人への支援

① 困難さへの
対処的支援

② 知識・スキルの獲得・維持

③ 環境の調整・ 支援者への支援

10歳代
20歳代
30歳代
40歳以上



(4)

「講座内容の具体」

学習内容

第3期以降、生涯発達支援と地域生活支援の4領域をもとに、成人期に重要な学習内容を見いだす取り組みを行う

1995年～2017年の講座数 115講座

講座内容の4領域への分類

学ぶ・楽しむ

書道でSHOW
Let' Dance
サイエンスラボ(科学講座)
ディスカバーJAPAN・World(地理講座)

くらす

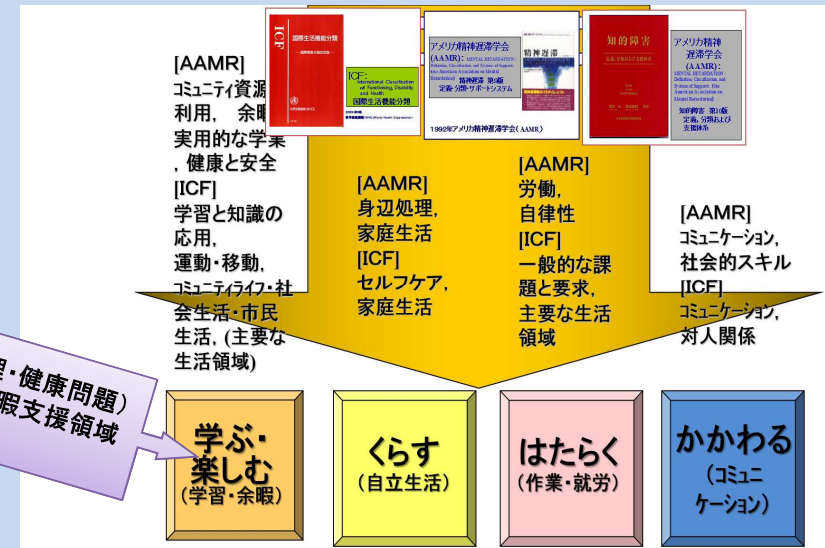
安心安全ケータイライフ
自分を守る～消費者被害からの回避
自分を守る2～携帯電話でのトラブルと消費者金融
日常生活の“考えるわざ”～携帯電話の契約と生活費

はたらく

くらしのマネー講座～今後の生活設計
自己理解
キャリアをデザインする

かかわる

裁判と人権
自分を守る(街で・職場で出会うトラブル、嫌な気分の時)
好印象を与える身だしなみ



生涯発達支援と地域生活支援の4領域

(4) 学習内容 学習の実際①

領域 かかわる： 好印象を与える身だしなみ



講師はメイクの専門家。色の心理効果などの学習を通し、自分の第一印象がよく見える身だしなみを考える。

(4) 学習内容 学習の実際②

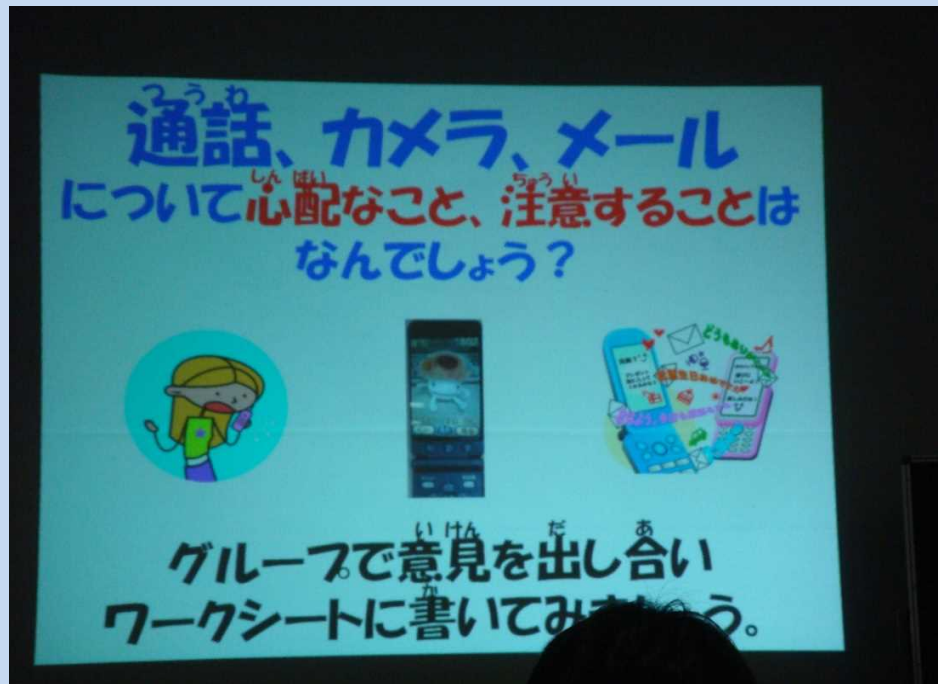
領域 はたらく: キャリアをデザインする



グループごとに「生活・住まい」「友だち・結婚」「趣味・余暇」について、10年後の自分を想像して意見を出し、話し合う。

(4) 学習内容 学習の実際③

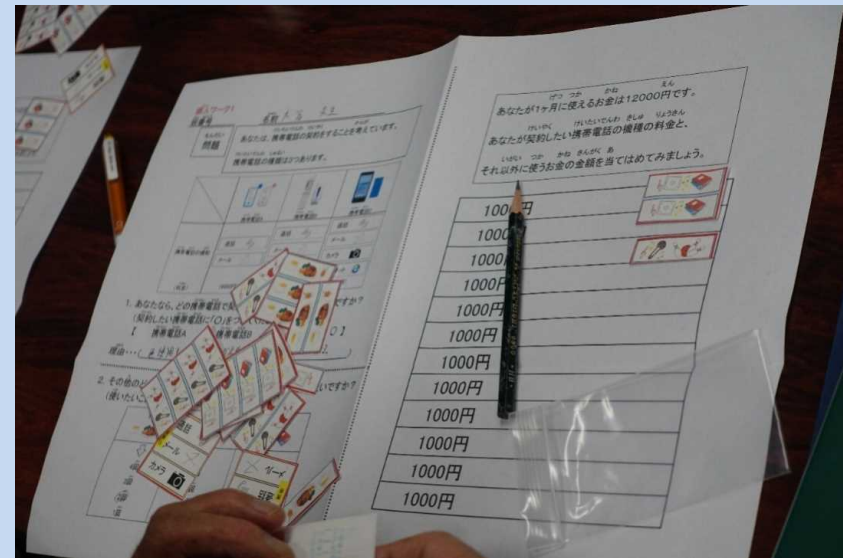
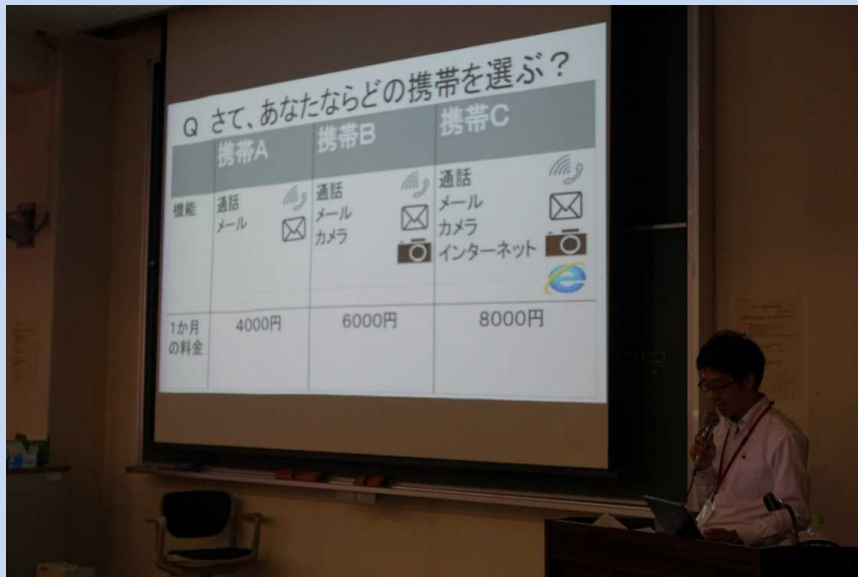
領域 くらす：携帯電話の使い方



講師は企業（携帯電話会社）の方。受講生が携帯電話に関わるトラブルに巻き込まれたことから、講座でも取り上げる。

(4) 学習内容 学習の実際④

領域 くらす：日常生活の“考えるわざ”



1ヶ月の生活費を基に、契約する携帯電話サービスを選択する講座。携帯電話以外にかかるお金を踏まえながら、選択することの大切さを学ぶ。

(4) 学習内容 学習の実際⑤

領域 学ぶ・楽しむ: 書道



「今年の一文字」「オープンカレッジ東京とは」などのお題に対して、グループごとに特大の半紙に表現していく。

(4) 学習内容 学習の実際⑥

領域 学ぶ・楽しむ: ダンス



講師は学生のダンスサークル。受講生同士のアイスブレイキングを目的に、第2期・第3期を中心に第1回の講座で実施していた。

(4) 学習内容 学習の実際⑦

領域 学ぶ・楽しむ: サイエンスラボ(科学講座)



日常生活で使っているものを題材に観察、実験を行う講座。
今回は漂白剤とお酢を使って、酸性かアルカリ性かをリトマス紙で特定した。

(4) 学習内容 学習の実際⑧

領域 学ぶ・楽しむ: ディスカバーWorld(地理講座)

	りよくちや 緑茶	ちや ウーロン茶	こうちや 紅茶
産地	中国や日本 作られた	中国や台湾	インドネシア スリランカ
発酵	ほとんど発酵させない 不発酵	30~60パーセント発酵 半発酵	80~100パーセント発酵 完全発酵
色(種類)	色は緑の茶	緑も茶がすくも茶	色は黒っぽい
形	細長い形	葉が曲がり 丸い形	葉の形は半ぶら
その他		葉がすくも茶の形を 整え入る	ブローンスタイプ



食材の比較を通して、地域の違い(地理的条件)を学ぶ講座。今回の題材は世界のお茶。資料から3つのお茶の特徴を表にまとめていった。

5

障害者の生涯学習支援 における課題

提案4. 知的発達障害の障害特性に基づく
支援システムの構築に関して

(1) OCTのまとめ～方向性

学習指導要領の方向性

何ができるようになるか

必要な資質・能力の育成

- ・知識・技能の習得
- ・思考力・判断力・表現力等
- ・人間性や学びに向かう力等
(どのように社会と関わるか)

何を学ぶか

教科・科目の内容の見直し

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学びーアクティ
ブ・ラーニングの視点からの授業改善

(2) OCTのまとめ～今後の課題に向けて

成人期知的障害者のQOLの高い生活は？
どのようなことが困難なのか？・どのような力を身に付ければよいのか？

成人期の生活・学習方法を踏まえ、
どのような内容を学ぶのか？

成人期の生活・学習内容を踏まえ、
どのような方法で学ぶのか？

(3) OCTのまとめ～今後の課題

成人期知的障害者の生涯学習で目指すもの

何ができるようになるか

自己決定
(自ら適切に比較し、選択)

何を学ぶか

どのように学ぶか

生涯発達支援・地域生活支援
の4領域

問題解決能力を身に付ける
協働的な学習方法

学齢期の知的障害教育への発信



(4) 障害者の生涯学習支援における課題

① 障害特性に応じた合理的配慮の体系化 のために

視覚障害：DAISY，拡大教科書，……

聴覚障害：手話通訳，補聴システム，……

知的障害：発達段階を考慮した多様な学習内容と
達成水準

発達障害：個々の特性に応じた様々な配慮

(4) 障害者の生涯学習支援における課題

② 障害特性の理解ととらえ方:

ひとは生涯にわたって発達している存在であることから、特性を発達の遅れと(発達)領域間の偏り(デコボコ)としてとらえることが重要である。

従って、支援に際しては**連続性のある発達を基礎・基本において考え、取り組む**必要があるだろう。

③ システム構築に向けた取り組み:

支援・実践の体系化と発信

(4) 障害者の生涯学習支援における課題

- ・誰が提供するのか(支援者の養成)**
- ・どこで学べるのか(障害者の生涯学習の場)**
- ・学習内容と方法の開発は誰が、どこで行うのか**
- ・学習効果の評価は誰が、どこで行うのか**

(4) 障害者の生涯学習支援における課題

誰が学ぶか

学習内容
(何を学ぶか)

企画・実施者
(誰が企画し、開講するか)

学習の場
(どこで学ぶか)

社会人になった障害のある人たち

① 学ぶ・楽しむ
学ぶ(知る)楽しみや
学び続ける楽しみ等

② くらす
自立に向けた日常生活
の活動等

③ はたらく
はたらくについての
知識・技能・態度等

④ 人とかわる
社会生活に必要なコ
ミュニケーション等

生涯発達支援と地域
生活支援の4領域

青年学級等

同窓会等
卒業生の集会

オープンカ
レッジ等

社協等での
研修会

支援機関等
の集い・研修

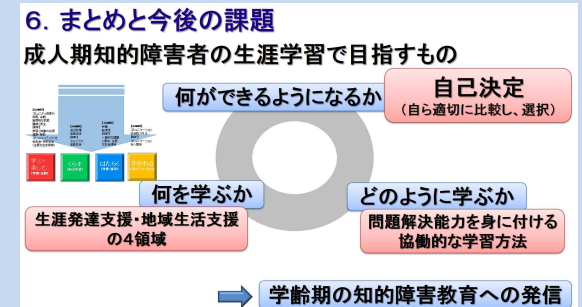
⋮

・地域の社会教育施設
・講師の拠点
(講座に必要な施設設備)
・大学・専門学校
・受講者が通い慣れた施設等
⋮

(5) 課題に向けて～OCTの挑戦

オープンカレッジ東京の挑戦

第4期:「考えるわざ」を学ぶ '15～



自己決定

(自ら適切に比較し、選択)

に向け

協働的な学習方法による
問題解決能力の獲得

問題解決:そこに存在する問題を発見し、
解決するための道筋を見定める

オープンカレッジ東京～考えるわざを学ぶ～

主体的な学びのために

問題を解決する力を
身に付ける

→ 主体的な
学び

①問題理解

②計画

③実行

④ふりかえり

自分でできるよう
になってほしい